

令和3年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	書く能力、読む能力、聞く能力、話す能力、ともに低いと感じる。家庭学習の習慣があまりついておらず、学習に取り組む意欲がなかなか出てこない生徒も多い。しかし、指示されたことには素直に従い、真面目に取り組む生徒が多いので、国語の学習に取り組む必要性を理解させることが大切である。	意欲的に学習活動に取り組む姿勢をもたせるために、一人ひとりの学力や課題を把握し、個別に声をかけていく必要がある。意味調べ、漢字練習などを家庭学習で充実させ、語彙力を高める。また、それらを基に心情や考えを読み取る課題を十分に設定する。	
社会	主体的に学習に取り組むための土台となる基礎的な知識の不足している生徒が多い。社会的事象に対する関心も、一部には高い生徒もいるが、自宅学習の習慣もついていない生徒が多く、受け身、待ちの授業からの意識の改善が求められると思われる。そのため学習事項の定着が最大の課題と考える。また、自身の考えや資料の読み取り等の文章作成の力もつけさせる必要がある。	・授業の色々な場面で、時事的なニュースを関連させながら紹介して、社会的事象に関する関心の度合いを高める。ICT機材を用いて、調べ学習にも取り組ませる。 ・単元ごとのワークによる復習を家庭学習の課題とし、習慣づけとともに基礎的な知識を定着させてゆく。 ・小レポートを多くこなし、発言しない生徒も自分の考えを文章に表す経験を増やしてゆく。	
数学	都の学力テストの結果を分析すると、正の数負の数の計算問題やグラフの読み取りの問題や平面図形の移動や図形の高さを示す垂線などの知識の問題は全国平均を上回っているが、比例式や比例・反比例の関係から式に表す問題や相対度数・累積度数についての問題、また、おうぎ形の面積やねじれの位置の問題は全国平均を下回っているのが苦手としている。	・問題を提起しながら問題解決型の授業の中で主体的に取り組ませる。また、家庭学習を通じて繰り返し、基本的な内容から発展的な内容で復習問題に取り組ませる。 ・文字を使ってタイルの枚数を式で表す内容の問題を授業で考えさせる。	
理科	授業中の様子としては、静かに話を聞くことができるが、考える活動や作業をさせてみると、理解する力が不足していることがうかがえる。定期考査の結果にしても、基礎基本の問題の正答率低く、家庭学習の習慣もついていない様子である。	授業中にワークを使った自習時間をつくって、学習の仕方を学ぶ。また、用語練習のワークシートを活用して、用語を繰り返し書かせるなど、反復練習を繰り返させ、知識の定着をはかる。ICTを活用して、実験結果を発表し合うことに利用してみる。	
音楽	去年度と比べて、歌唱に関して意欲の増進が見られた。器楽に関してはギターの意欲が低かった。難度の高い課題に対して最初から諦めてしまう点が目立つ。出来ることはやろう、という意識はあるが、その先がない状態である。	スモールステップ、ユニバーサルデザインを心がけていきたい。合唱コンクールのパート練習を利用し、歌唱の個別指導を取り入れることで知識の拡充を図りたい。	
美術	説明や指示を聞く時間と制作の時間との切り替えができるようになり、制作時間を多く取れるようになってきた。優れた表現をする生徒も目立っており、引き続き自信をつけさせながら高い技能を身に付けさせていきたい。また、鑑賞の能力も向上しているため、感じたことを言葉で表す力をさらに高めていきたい。	構想を練るときに、様々な角度からイメージを膨らませてから色や形で表現できるように、アイディアスケッチを用いたり、生徒同士の意見交換の場を設けたりして、言葉によるイメージの具現化から制作に入る活動を増やす。また、制作後の鑑賞時にもコミュニケーション活動やICTの取り組みを増やしていきたい。	
保健体育	昨年の課題であった集団行動ができるようになったことで、集合・整列、説明を聞く態度、説明後の動きなど、全体的にきちんと取り組めるようになった。運動の特性を正しく理解し、お互い学び合えるよう、考えて行動できることが課題である。基礎的な体力、運動能力については、多くの生徒が自信につながる成果を得てきた。さらに、地味な練習の繰り返しや負荷を増やすなど、精神的な向上も期待していきたい。	引き続き、毎回の授業で継続走や補強運動を取り入れ、体力の向上に努めていく。さらに、12分間走を実施し、持久力を高めていく。また、各種目の特性や練習ポイントなど、知識・理解を深め、自己的確かな課題の設定ができるようにするとともに、グループ内での学び合いの力を高め、考えて行動する場を増やし、さらにはリーダーを育てていけるよう、指導していく。剣道で男女共修を試みる。ICTを活用していく。	
技術・家庭	年間授業時数が少なく、緻密な授業計画を立てる必要がある。学習内容を実生活に結び付けることで興味・関心を高める。家族の立場と役割について関心を持っている。幼児の生活について、意欲的に学習しようとしている。	自らの回りの生活にある課題を見つけ、解決する作品作りに取り組めるような授業を展開する。ICT機器を活用し、効率的に作業を進めることや学習内容が実生活で活用されている例などを示す。自分の生活や家族について、課題を見つけ工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件	
外国語(英語)	まじめに授業に取り組んでいるが、基本的な知識や理解がなかなか定着していない。特に思考・判断・表現の技能を高めるための課題に取り組む必要がある。また、授業に対して前向きに取り組んでいる生徒もいるが、大半の生徒の発言が少なくなっていることが課題である。	日頃から「書くこと」だけでなく、言語活動を通して、表現する頻度を増やす。まずは文字と音を一致させ、しっかりと音読ができるように指導し、段階に応じて単語、文と次第に書ける量を増やしていく。デジタル教科書などのICT機器や、教師作成のプリントを活用して、コミュニケーション活動を増やし、まず話し、そして実際に話したことを書く、という活動を増やす。	
道徳	読み物の教材を通じて、じっくり考えたり意見を交換する中で、道徳的な価値を身に付けようとした。他の意見をしっかり聞いて、自分の意見をしっかりと伝えることが課題である。	ワークシートやICTを活用し、話し合い活動を行うことによって、自分の考えを深めたり、他の考えを受容したり議論する力を身に付ける。	
総合的な学習の時間	資料を使って調べたり、まとめたり、発表したり、その発表を聞いて考えを深めたりすることができるようにする。	校外学習などの体験を通して、資料やICTを使って調べ、まとめ発表することを行った。特に、今年度は学年全体の全員発表会を行い、全員で意見を共有することができた。	